

バイオ燃料で 地域活性化を

原料栽培 耕作放棄地を活用

茨城大が研究会

茨城大学が、イネ科のスイートソルガムを原料にガソリン代替のバイオエタノールを生産し、地域活性化につなげるプロジェクトを進めている。スイートソルガムによるバイオ燃料生産はほとんど例がなく、栽培には県内の耕作放棄地を活用する計画。同大は今年中に産官学の研究会を発足させ、「エネルギーの地産地消」実現に向けたモデルプラン作りを本格化させる。

バイオ燃料は生物体（バイオマス）を原料とし、ガソリンの代替物として注目される。スイートソルガムは飼料作物の変種で、トウモロコシやサトウキビのような食料生産とは競合せず、エタノール収量もサトウキビに匹敵。低温に強く、国内全域で栽培可能という。同プロジェクトはこれまで、農、工両学部の教員らを中心に進めてきたが、本年度から県や日立市、阿見町、酒造会社の岡部合名会

プロジェクトは、同大農学部（阿見町）のほ場や同町の遊休農地などで栽培したスイートソルガムからエタノールを生産。ガソリンに3%添加した混合燃料などを地元で流通・消費させる計画で、将来的には地域交通システムへの利活用を図る。併せて、耕作放棄地の有効活用などを通じ、農業再生と環境浄化にも寄与する。

○：県内建設業者の倒産件数について「前年に比べて件数が倍増しており、危機的な状態にある」と須藤修一県土木部長。国直轄事業については、県内建設業者が受注機会を確保できるよう、県内の国交省事務所に要望書を提出した。県内の国発注工事の県内業者受注金額は栃木、群馬両県に比べて低い割合。「県内業者の技術力は向上している。従来の考え方は変えてもらって、入札の参加機会を増やしてほしい」とし、県内業者

研究会発足を記念して、同大は二十四日午後一時から県三の丸庁舎の茨城大学インフォメーションセンターでワークショップを開催する。（松下倫）

記者手帳

伝統文化の普及呼び掛け

への発注目標を五割以上に設定するよう求めた。○：「書き直しがきかない書には、脳を活性化させる働きがある」。きょうまで県民文化センターで開催中の「日本の書展茨城展」の表彰式で、書家の佐川倩崖さんが来場者に語り掛けた。茨城新聞学生書道紙上展の入選者表彰も行われたため、多くの学生やその親たちも来場。音楽や絵画以上に、書には脳活性化の働きがあると科学的な視点で説明し、「子どもには落ち着きが出るし、ストレスもなくなる」と、日本人が誇るべき伝統文化の普及、推進と力説する。



常陸河川国道事務所 須藤部長は、県内業者への発注機会を確保するため、発注割合の数値目標を定めて公表するよう求めた。同事務所の児玉好史所長は「これまでも十分対応してきたが、地元業者が総合評価で適切に評価されるようにしていきたい」と述べた。県内の国発注工事の県内業者受注割合は昨年度41・6%で、栃木46%、群馬58・9%を下回っている。

家紋歳時記

高澤 等

■ 違いの葉

新潟県・佐渡の度津神社の神として尊崇を集め、四百年に例祭が行われる。祭神の神木といわれ、植林は神の材を生み、人々に車を並べ船や航海の術も授けたといわれる。その名が風に通じ、

ことを願う。符や道中の安守りでもお守りとして信仰とかが多く用い、長野県などに